

会報

大学生協友の会

2025年2月1日  
第45号  
大学生協友の会発行〒166-8352 東京都杉並区和田 3-30-22 全国大学生協連役員室 TEL: 03-5307-1111  
E-mail unicon@univcoop.or.jp ホームページ: <https://unico.itigo.jp/>

## 24年度第14回会員親睦会開催報告

去る12月7日（土）大学生協杉並会館にて2024年度会員親睦会が32名の参加で開催されました。

会員親睦会は、14時より大学生協会館5階ダイニングルームにて伊野瀬幹事長の開会あいさつと藤岡武義さんから

乾杯の発声を受けて開催しました。

親睦会では、齋藤嘉璋さんから、先般ノーベル平和賞を受賞した被団協の関係者と大学生協、地域生協との関

係について紹介がありました。とりわけ大学生協との関係では、被団協代表委員の一人である田中熙巳さんについて以下のように紹介されました。

田中さんは、13歳の時長崎で被爆され、51年東大駒場生協で働きながら受験勉強に励み、第五福竜丸被爆を契機に核と原爆を学ぶために56年東京理科大学物理学部に入学した。入学後、東京理科大生協の設立に参加し、初代学生専務理事になり、58年大学生協連監事に就任しました。とても大学生協に深い関わりを持った先輩です。

その後に東北大学工学部で教鞭をとり、宮城県被爆者組織「はぎの会」事務局長を経て、85年に日本被団協事務局長となり、2017年被団協代表委員に就任されました。

さらに被団協の受賞の報とその受賞理由を聞き、各

地の地域生協や大学生協が、被爆者の被爆体験を聞き・学ぶことから、「聞き書き残す」活動を各地の被団協と連携して活動できたこと、また国連軍縮特別総会（SSDI～II）への代表団の派遣はじめとする

「再び被爆者を作らせない」という核兵器廃絶の訴えを国連など世界に広げる活動ができたことなど被団協と共に活動ができたことがとても良かったと語りました。

また「生活協同組合研究」（2024. 12Vo1. 587）に日本被団協のノーベル平和賞受賞に思う」と題して寄稿したことを紹介されました。

その後、参加者よりの近況報告を受けて歓談し、宮寺重男さんからの中締めあいさつを受けて、散会となりました。

追記：2024年12月11日ノーベル平和賞授賞式で田中熙巳さんは被団協を代表し授賞講演され、草稿にない原爆被害に対する国家賠償を日本政府が拒否する態度について二度に渡り非難した。即ち「日本政府は一貫して国家賠償を拒み、放射線被害に限定した補償のみを行い、原爆で亡くなった死者に対する償いを全くしていない」と指摘し、被団協の基本 요구が、核兵器廃絶とともに政府の戦争責任を含む国家賠償にあることを表明しました。



# 「いい質問」がAIを動かす～AIの本質

2017年退職 栗山 武久

## 【目次】

はじめに

### 1. そもそもAIとは

#### 1.1. 二つのAI

#### 1.2. 最近流行りの生成AI

### 2. 身近にある生成AI

#### 2.1. テレビCM

#### 2.2. スマートフォン

### 3. シニアのためのAI活用法

#### 3.1. 「いい質問」がAIを動かす

#### 3.2. いくつかの便利なキーワード

#### 3.3. 習うより馴れろ

#### 3.4. すぐに使える生成AI三選

おわりに

## はじめに

日々の日常生活の中で“AI”と言うバズワード (buzzword: 流行り言葉) を聞かない時がなくなってきた今日この頃です。

大学生協を卒業後に現在の仕事のコアに据えたのが“AI”でした。大学生協時代にICT関連の仕事に携わっていた関係で、所謂「AIアレルギー」はなく、面白おかしく学びながら仕事や生活に活かしてきました。

ここでAIに興味を少しでも持たれている方のためにコラム風にAIについて紐解いてみたいと思います。

## 1. そもそもAIとは

### 1.1. 二つのAI

ほとんどの方は「AI=人工知能」だと思っています。間違いではないのですが、正確ではありません。

AIが日本で話題になり始めた時にIBMは次のように申しておりました。

「Augmented Intelligence (拡張知能)」

人間の知識を拡張し、意思決定や問題解決を支援するための技術であるという考え方です。

“Augmented” (オーグメント) は「拡張」「増大」という意味です。

それに対して「Artificial Intelligence (人工知

能)」の、“Artificial” (アーティフィシャル) は「人工的な」や「人造の」という意味です。

現在でも、まだ「知能」にはほど遠く「拡張知能」の域を脱していない段階です。

### 1.2. 最近流行りの生成AI

「生成AI」と言うバズワードもよく聞くようになりました。

生成と言うくらいですから何かを生み出すことに用いられるようになってきました。代表例は作文、画像や音楽です。

ただ、これらもオリジナリティのある創造物ではなく、インターネット上にあるデータの継ぎ接ぎなので不自然さは拭えません。

## 2. 身近にある生成AI

### 2.1. テレビCM

伊藤園の2023年4月に放送を開始した「お〜いお茶 カテキン緑茶」のテレビCMで、AI model社が開発したAIタレントを日本で初めて起用しました。



(fig. 1伊藤園公式チャンネルより)

また、コカコーラも生成AIの提案するアイデアを利用してCM作成をしています。

### 2.2. スマートフォン

日常生活で一番身近なAI搭載のモノはスマートフォンでしょう。

スマホに話しかければ、近くにあるラーメン屋さんやコンビニも教えてくれます。分からない言葉も教

えてくれます。

一昔前だったら黒い蒲鉾板に話しかけている変な人かボケ老人です。

冷蔵庫にある材料と和風とか中華風などの好みを伝えて、夕飯メニューの手助けもしてくれるようになりました。

### 3. シニアのためのAI活用法

ここからはAIを賢く使うためのコツをご紹介します。

#### 3.1. 「いい質問」がAIを動かす

弁護士の谷原誠著「『いい質問』が人を動かす」（文響社）に準えてAIの動かし方を考えてみましょう。

少し専門的になりますが「プロンプト」と言うコンピュータ用語をご存じでしょうか？

プログラミングをやった経験のある方は画面の冒頭に出てくる・・・

>

このような記号のことです。

AIを上手く活用できない多くの要因は、この質問がAIにとって理解できない質問になっているせいかもしれません。

賢い質問は優れた解答を導き出します。相手は所詮機械ですから、こちらから正確の問い合わせをしないと正確な答えは返ってきません。

また複数以上のAI（生成AIエンジン）に、同じ質問を投げかけてみるのが大切です。時には、全く違った答えが帰ってくることもあります。

#### 3.2. いくつかの便利なキーワード

「小学生にでもわかるように教えてください」

「ポジティブな意見とネガティブな意見の両方を教えてください」

「〇〇を計算してください」「一覧表にしてください」など、便利なプロンプトです。

海外への問い合わせなども翻訳アプリを使うより便利です。

「先方が便宜をはかってくれるような文章にしてください」とか、「大切な先生なので失礼の無いような文書をお願いします」などと付け加えると、求めるニュアンスに近い良い文面が返ってきます。

#### 3.3. 習うより馴れろ

自転車やクルマなどは典型ですが、使いはじめや乗りはじめは意識してぎこちなく、転んだり擦ったり

ヒヤヒヤしたと思います。

でも慣れてしまうと意識せずに使いこなしていると思います。

AIも日常で使っていれば、そのようになるでしょう。

#### 3.4. すぐに使える生成AI三選

身近なスマホで使える（もちろんPCでも可）AIを紹介いたします。

①Copilot(Microsoft)

②Gemini(Google)

③Claude(Anthropic AI. Inc)

特にCopilotは他のAIがテキストベースの解答の生成なのに対して、画像の生成が出来ます。ちょっとしたイラストや挿し絵が欲しい時などに重宝します。ベースになっているのはChatGPT-4なので、無償でChatGPTが使えるのも大きなメリットです。

例えば「糸にじゃれつく三毛猫を描いてください」と入力すると・・・



(fig.2 ChatGPT-4による作画)

#### おわりに

パソコンやインターネットの聡明期に、多くの人が戸惑い拒絶し悩んだ時期がありました。けれども今は、子どもから年配者まで使いこなしています。

AIも同じようなものでしょう。

便利で役に立つものであれば先に使いこなした方がお徳ですね。

この寄稿文でAI関連のコラムが150を超えました。何かご不明な点や面白そうなお話があればお気軽にお問い合わせください。

t.kuriyama.cgk@gmail.com

まで、どうぞ。

## 東大生協OBOGの会近況報告

東大生協OBOGの会幹事・釜田春美

コロナ禍で、東大生協OBOGの会も2020年から2023年までの3年間は活動を停止しなくてはなりませんでした。その間は会長を中心に数人の会合を学外で何度か持ち、各幹事には学内の状況や会員からの連絡などをメールで共有してきました。2023年3月に3年ぶりの幹事会を再開し、10月には例会（総会）を本郷第二食堂ホールで開催することができました。2024年からは恒例の会員参加企画も少しずつ開始しました。第4回目となる「福島バスツアー」、「五月祭で楽しむ会」、「横浜港見学会」、「第77回二紀展鑑賞会」などでした。「福島バスツアー」は友の会の会報44号にも様子が転載されましたので割愛し、「横浜港見学会」と「第77回二紀展鑑賞会」について紹介します。



「横浜港見学会」は横浜港振興協会が市民ならびに小・中校などを対象に通年で開催する無料の見学会です。

この10月3日の企画に団体申し込みをして受理され、12名が参加しました。横浜港に行く前に、まず元町中華街駅で集合しました。中華街で昼食をとりながら交流をした後に「あかいくつバス」で観光スポットを周回し、最後に港に着くコースをとりました。見学会はマリーン・ルージュ号による港の周回です。乗船すると運良く12席の個室を確保できました。ベイブリッジの下をくぐり、港を一周すること約1時間。再びベイブリッジをくぐり帰港。曇り空でデッキの風は強かったものの、大いに楽しむことができました。

第77回二紀展会期中の10月21日に「統一鑑賞会」を

開きました。

この日に参加できなかった方には招待券をあらかじめ送付し、延べ20名近くの方が鑑賞しました。二紀展鑑賞会はコロナ禍で開催中止となった展覧会を除いてこの10年、毎年実施しています。招待券は、二紀会で絵画委員を務められ、東大生協OBOG会員でもある松本邦夫さんが都合してくれました。友の会会員の皆様も希望があればお渡しできますので、2025年に予定されている第78回二紀展（2025. 10. 15～27予定）の際には小生釜田までご連絡いただければお渡しできます。また同氏は9月12日から24日までコートギャラリー国立において個展を主宰されました。ここにも多くの会員や元同僚の方々が来場されたとのことです。



最後に、2024年ノーベル平和賞が日本被団協に与えられたことはご存じでしょう。（別頁記載）授賞式で演説をされた代表委員・田中熙巳氏は東大生協OBOGの会の会員でもあります。氏は東大生協退職後に理科大学に入学し、在学中は理科大生協の設立にも寄与されたそうです。その後東北大学で研究活動を続け、教鞭を執りながら被団協の活動に入られたと聞いています。授賞式での演説に感銘を受けました。草の根からの活動がいかに大切であるかを改めて教わりました。



# 早稲田大学生協2024年度の振り返りと2025年度への展望

早稲田大学生協生活協同組合 専務理事 山口 知子

コロナ禍の厳しい経営を支えていただきました姫田歩専務理事よりバトンを受け取り、2024年5月より専務理事を務めております山口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。



早稲田大学は2023年度から100分授業（春・秋学期15週→14週への減少）がスタートしました。他の大学でも同様の動きが取られており、日々の学生利用を基本とする大学生協にとっては厳しい学内変化です。春・秋2週間の営業日の減少

は、食堂・食品の供給だけでも5,500万円の減少と見込んでいます。学生の学内滞在時間・日数もコロナ前と変化しており、効率的な登校頻度での履修登録が当たり前となっています。

2023年度の利用客数は181万人で、2019年度対比▲47%、供給高38億円、経常剰余高▲1億598万円でした。同じような経営を続ければ、10年で債務超過になってしまう状況をどう回避するのかは中期的に大きな課題です。併せて、いつまでも「コロナだから厳しい経営状況なのです」と言うてはいられず、何とかこの状況を打破しなければなりません。

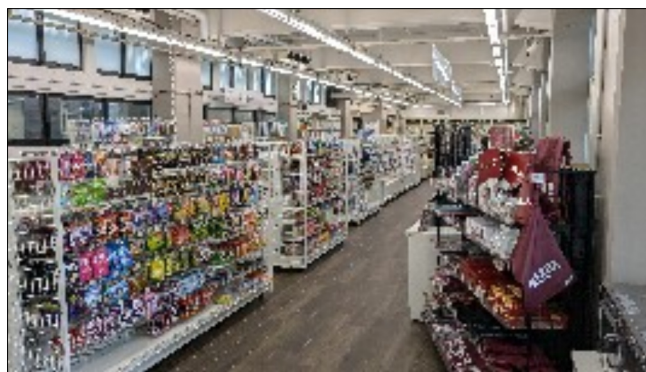
その打ち手として、以下の施策を実践してきました

1. 新規事業（公務員講座・住まい事業）の強化
2. 食堂トータルでの黒字化（2023年度の食堂赤字は▲3,500万円）
3. 食堂員外利用の割合を10%→20%へ増額
4. 食堂部門の水道光熱費の大学への支援要請
5. 食堂組価の価格変更検討
6. 生協アプリポイントの活用、書籍値引終了→アプリポイント11%付与へ変更、生協ミールパス（ミール定期券）の推進

7. 組合員ニュースの作成
8. 組合員ヒアリングの実施
9. 商品ロス・棚卸ロスの削減をすべての職員へ伝え実践

2025年度は、上記の改革実践を進めながら「第7次中期計画策定準備」「経常剰余▲5,000万円、2026年度には▲3,000万円（税引前±0）に向けて」「今こそ組合員の声を大切にした商品・サービスの提供とアプリ推進を進め、また来たいと思っただけの店舗を目指して」を方針として掲げています。コロナを経て学生は生協店舗を知らなくなったと思っています。いつも授業をしている建物に店があれば、そこを利用する。コンビニも大学生協も何ら変わりはなく、むしろ生協でなくてもよく、選択肢は早稲田界限ではたくさんあり、早稲田大学の教職員の皆様も学生同様に思っているのかもしれませんが。そのような状況ですが、私たち大学生協が持っている「手段」でどうにか「早稲田大学生協にまた来たいと思っただけの店を作ること」を店長はじめ職員メンバーと考えていきたいと思えます。早稲田大学生協でしかできない商品・サービスでさらなる剰余を、大学生協アプリを通して生協を繰り返し利用してもらう仕組みを、そのためには今こそ基本に立ち返り組合員の声を理解し、現場にいるすべての職員から生まれる付加価値はとても大切です。

## <24年9月戸山店改装>



改めてまた利用していただくためには早稲田大学生協ならではの運営をしなければならぬと感じています。

# 日本被団協のノーベル平和賞受賞 ともに喜ぶたい被団協の大学生協関係者

齋藤 嘉璋（元早大生協専務、元日本生協連常務）

日本被団協が今年のノーベル平和賞を受賞しました。“2度と被爆者は作らせない、核兵器廃絶”と訴え続けてきた被爆者とその運動に取り組んできた関係者にとって大変嬉しいことです。喜んだ私はすぐ、ブックレット「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」改訂版に原稿をいただいた被団協代表委員の田中照巳さんに「おめでとう」とメールしました。田中さんは後述するように東大生協（駒場）の職員や東京理科大生協の専務の経歴を持ち、1958年に大学生協連が法人化した時の役員です。私は大学生協連で同期だった縁で、今回、ブックレットに寄稿してもらいました。

田中さんはその寄稿で生協の活動が被爆書とともに進められたことを評価していますが、私は生協が「ヒバクシャの声」を残し、広げる活動と国際活動の2点で大きく貢献したと考えました。

## 「ヒバクシャの証言」が「唯一無二」

被団協のノーベル平和賞について、授賞理由には被爆者の「草の根運動」としての長年の「たゆまぬ努力」が「核兵器の使用は道徳的に容認できないという強力な国際規範」「核のタブー」を形成した、その力は「ヒバクシャの証言」が「唯一無二」のものだったと記載されています。

私は、生協が一緒に取り組んだ被爆者から「聞き書き語り残す」活動が評価されたと受け止めました。原水爆禁止運動として広島や長崎での行動や被爆者との関係では被爆者援護法制定要求運動などに取り組んでいた生協は、90年代に入ると各地の被爆者団体と共同して、被爆者の声を「聞き書き語り残す」活動に取り組みました。生協の組合員にとって被爆者の声を聞き、被爆の実相を知ることは反核平和の取り組みへ強化の大きな動機になり、被爆者や地域被爆者団体との提携・共同を広げることとなりました。大学生協でも学生や若者に被爆の実相と「ヒバクシャの声」を伝え、残す活動に取り組みました。

## 国際活動での共同

日本生協連は分裂していた原水禁運動が1977年に統一世界大会を成功させたとき、他の婦人・青年など市民団体とそれに参加し、統一行動成功に貢献しました。翌年の78年から始まる国連軍縮特別総会（SSDⅠ）にも参加し、さらに82年のSSDⅡには200人の代表と38万人分の署名を送り、ニューヨークでの「100万人平和大行進」に参加します。

88年、日本生協連は国連から「ピースメッセンジャー」の大変名誉な称号を付与されます。90年代に入ると「世界法廷運動」に取り組み95年には核兵器の国際法上の違法性が審議されるハーグの国際司法裁判所に代表を派遣しました。私は生協の代表団の団長として参加しましたが、被団協は伊東壮、山口仙二両代表が参加しており、共同行動をとりました。

21世紀に入ってから被団協が作成した「原爆と人間パネル」を各国の協同組合等に贈る活動や国連の核不拡散条約（NPT）再検討会議に代表を送り、被団協の代表と一緒に核兵器の廃絶を訴える「ニューヨーク行動」を継続的に取り組みました。

被団協は2016年に「ヒバクシャ国際署名」を始めますが、日本生協連はこれに協力、20年までに280万人分の署名を集めます。生協はじめ多くの組織が協力した1,370万人分の署名を被団協は20年、国連に提出します。17年に成立した核兵器禁止条約には徐々に参加国が増え、23年には署名93か国、批准69か国となりますが、これにはICANや被団協などの国連対応をはじめとする国際活動の成果と言えます。日本の生協の被団協と共同の取り組みも大いに役立ったと私は考えます。

## さらに核兵器廃絶と記録遺産の継承を

今回のノーベル平和賞の授賞はロシアの核兵器による威嚇、イスラエルや北朝鮮などの危険な動きに対する警鐘であり、核兵器禁止条約への日本政府などの参加への期待が込められていると考えます。合わせて「ヒバクシャノ声」、その実相や記録を「遺産一記録の記録」として残すことが、大きな課題だと考えます。

日本生協連は「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」を支援しており、その活動は被団協との共同事業のシンボリックなものとは私は評価していません。私もブックレット「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」の収益を同会に寄付をするなど協力しています。しかし、＜ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産継承センター＞の施設はそんな微細なカンパでは問題にならないので、その構想の具体化と全国的な運動の展開を期待しています。

ノーベル平和賞をとともに喜びたい人  
被団協の平和賞受賞の報を聞いて、田中さんとともに「おめでとう」と喜びたかったのは、同じブックレットに寄稿をいただいている竹本成徳さんでした。竹本さんは同志社大の院生のとき同大学生協の専務を務め、神戸生協に入協、灘神戸生協組合長、日本生協連会長と生協一筋の方でした。広島で被爆、被爆体験をまとめ「さいごのトマト」を出版、生協を退任後は語り部としても活動され、2020年に亡くなりました。私がブックレットをもとに各地の学習会に行ったことやブックレットが5000分を超えて購読されたことなどを報告すると大変喜ばれました。竹本成徳（たけもとしげのり）さん（1931年生れ、45年8月広島で被爆。50年同志社大学入学、54年同志社大生協専務理事。57年神戸生協入協、89年灘神戸生協組合長、93～2003年日本生協連会長。2020年没。

○生協に関係のある日本被団協の3人の代表委員

田中熙巳（たなかてるみ）さん（1932年生まれ、長崎で被爆、代表委員2017～現在。51年に上京し東京大学生協に就職。56年東京理科大学に入学、同大学生協の設立に関わり初代専務理事、58年全国大学生協連監事。物理学研究のため東北大へ。東北大時代に宮城県の被爆者組織事務局長、85年から日本被団協事務局長。現・代表委員）

私は早大生協の学生理事として58年に大学生協連の常任理事になり、連合会で同期ですが田中さんが被爆者とは知らず、田中さんが定年後埼玉に移住し、2000年に事務局長の任務を再開してから知りました。田中さんの東大生協時代の上司の島根善太郎さん（東京生協理事長）は私が日本生協連事業部でCOOP商品の開発担当だったころの上司であり、その縁から田中さんに大学生協9条の会の講師に来て

もらったり、今回の「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」改訂版に寄稿をいただいたりしています。

伊東壮（いとうたけし）さん（1929年生まれ、2000年没。広島で被爆。代表委員1981～2000年。一橋大学卒業後65年から山梨大学教員、92年から学長。山梨大生協理事長、山梨中央市民生協理事長。東京の被爆者組織・東友会の事務局長、会長を務め、81年から日本被団協代表委員）

私は79年から東京都生協連の常務理事を務めており、当時、伊東さんのことは東経大生協の専務として三多摩市民生協の創立リーダーだった萩原久利さんから学生運動の仲間としての話を聞いていました。しかし、伊東さんはじめ東友会の方とは直接お会いする機会がなく、お会いしたのは80年代の生協規制が激化したころ日本生協連の総合企画部長としてです。伊東さんは経済学者として通産省の大規模小売店舗審議会の特別委員であり、その審議会で生協がどのように扱われているか、生協はどう対処すべきかを知るために山梨大を訪ね、お話を伺いました。その時も生協の話が中心で被団協の活動についてあれこれ聞くことはなかったのですが、日本原水協の分裂が日本被団協にも影響したころ東友会として苦勞されたことは他から聞いています。ハーグでもご一緒しながらお話しする機会がなかったのが、今でも残念です。

岩佐幹三（いわさみきそう）さん（1929年生まれ、2020年没。広島で被爆。代表委員2011～2019年。金沢大法学部長、名誉教授。金沢大生協理事長。60年に石川県原爆被災者友の会設立、2000年日本被団協事務局次長。16年オバマ大統領の広島訪問時に代表委員として対応。）

私は、大学生協連専務だった高橋晴雄さんから岩佐さんのことはたびたび聞いていましたが、直接、生協や平和についてお聞きする機会はなく、お話しできたのは、現役を離れ久しぶりに広島の平和行動に参加した2016年です。この時、岩佐さんは“虹の広場”の企画で子供たちに被爆者として被爆体験を話されました。大学の法律学者とは思えない優しい人柄があふれたお話だったので、そのあとの短時間の懇談でも学生・若者が好きで、生協が好きで、平和を愛する人として感銘を受けました。岩佐さんは若者への被爆体験の継承の大切さを強調されました。

# 協同活動と人間賛歌、この道を歩んだ我が人生に悔いなし

元大学生協連常務理事 稲川 和夫さんインタビュー④

京都大学生協には、地連事務局、京都ブロック、同志社大学生協と東京大学生協から各々1名、計4名の幹部が再建支援に入り、二年間で経営の立て直しに成功しました。同志社大学生協、立命館大学生協も経営の改善が進みました。

1960年代に入ってから、流通業界は大企業の介入支配が強化され、寡占化の傾向が強まりました。また、消費者・学生組合員の生活スタイルに変化が現れました。小売店のサービスも変化し、長時間営業をする店も出始めました。これらに対応するために、単協間の事業連帯、事業連合結成への動きを強めなければなりません。

この変化に対して、京都地区では京都同盟体を発展強化させ、総合的な事業連帯が可能な新たな組織として京都事業連合を設立する準備に入りました。私は京都同盟体の責任者として専任する必要から、京都大学生協を離任しました。

京都地区の大学生協は、各単協の個性が強く、専従者の交流も弱かったですが、大学紛争を契機にして生協防衛の連帯活動で交流が深まり、事業連帯は予想より早く進みました。

1971年、京都同盟体という主として商品の統一仕入れの協同事業体を発展的に解体し、法人格を持った京都事業連合という総合的な協同事業体を設立しました。専務理事として同盟体を含めて六年間お世話になりました。高野玉岡町に土地を購入し、倉庫と配送機能を持った会館を建設しました。

## 【市民生協ならコープ創立の頃】



1973年、京都事業連合の協同事業が軌道に乗り一段落した段階で連合会に戻ることになっていました。しかし、市内で開催さ

れた送別会で京都の方々が強く反対され、連合会への帰任は取り止めとなりました。複雑な心境でした。京都の市民生協や大学生協に残る気持ちもありませんでした。一度住んでいた奈良県にはまだ地域生協

がなかったこともあり、当時の大学生協が支援することを決めていた地域生協づくりを進めることになりました。

当時、奈良県は大阪からの転入者が多く、人口急増県と言われていました。石油ショックによる商品不足や新居者の多いこの地域では、各地で自主的な商品確保の動きが高まっていました。京都と奈良の大学生協の支援で設立準備会をつくり、奈良県の県勢調査や生協設立の賛同者加入活動を行いました。加入者が二千人を越え、1974年7月に県文化会館で設立総会を開くことができました。この活動で奈良教育大学の学生理事たちの献身的な支援活動は今でも忘れることができません。

創立時に強調したことは、県民の圧倒的な多数が参加する多数者生協を目指すこと、奈良の大自然と地場業者と提携し、地産地消の地域経済に貢献すること、組合員の生活全般の安全安心の事業活動を展開することなどでした。私は創立から約10年お世話になり、1982年常務理事として連合会に帰任し、1988年連合会で定年を迎えました。

## 【いま思うこと】

東京大学生協からならコープまで約35年、10生協に移籍在職し、苦しかった時、悲しかった時には涙を流し、楽しかった時、嬉しかった時はみんなで酒を酌み交わす、これらが交差した人生であり、「協同活動と人間賛歌、この道を歩んだ我が人生に悔いなし」と実感するばかりです。(完)

